



彼女が公爵邸に行った理由

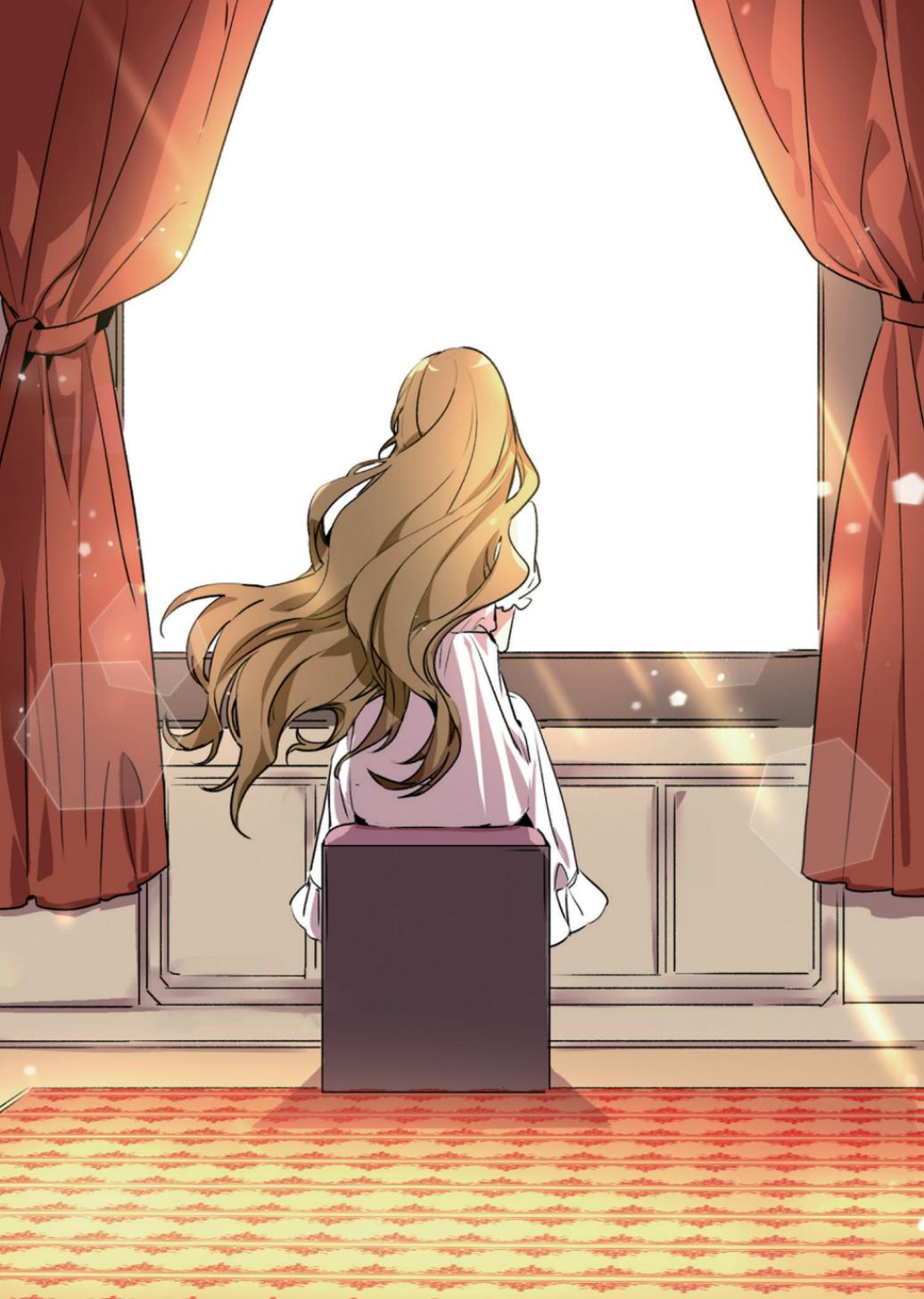
THE REASON SHE WENT TO THE DUKE'S MANSION



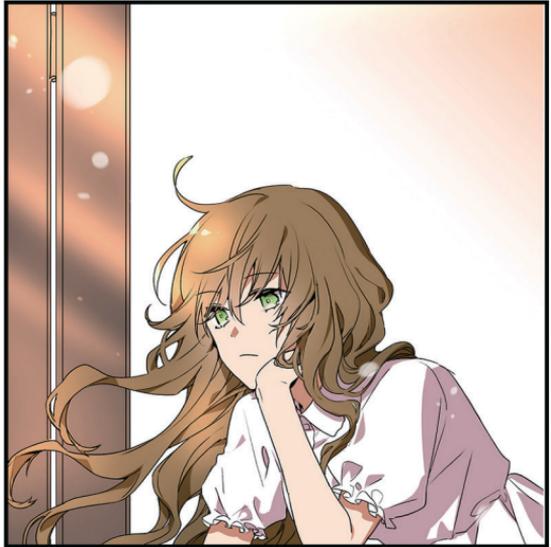
1

漫画 ♣ Whale 原作 ♣ Milcha





私^{わたし}の家^{いえ}…



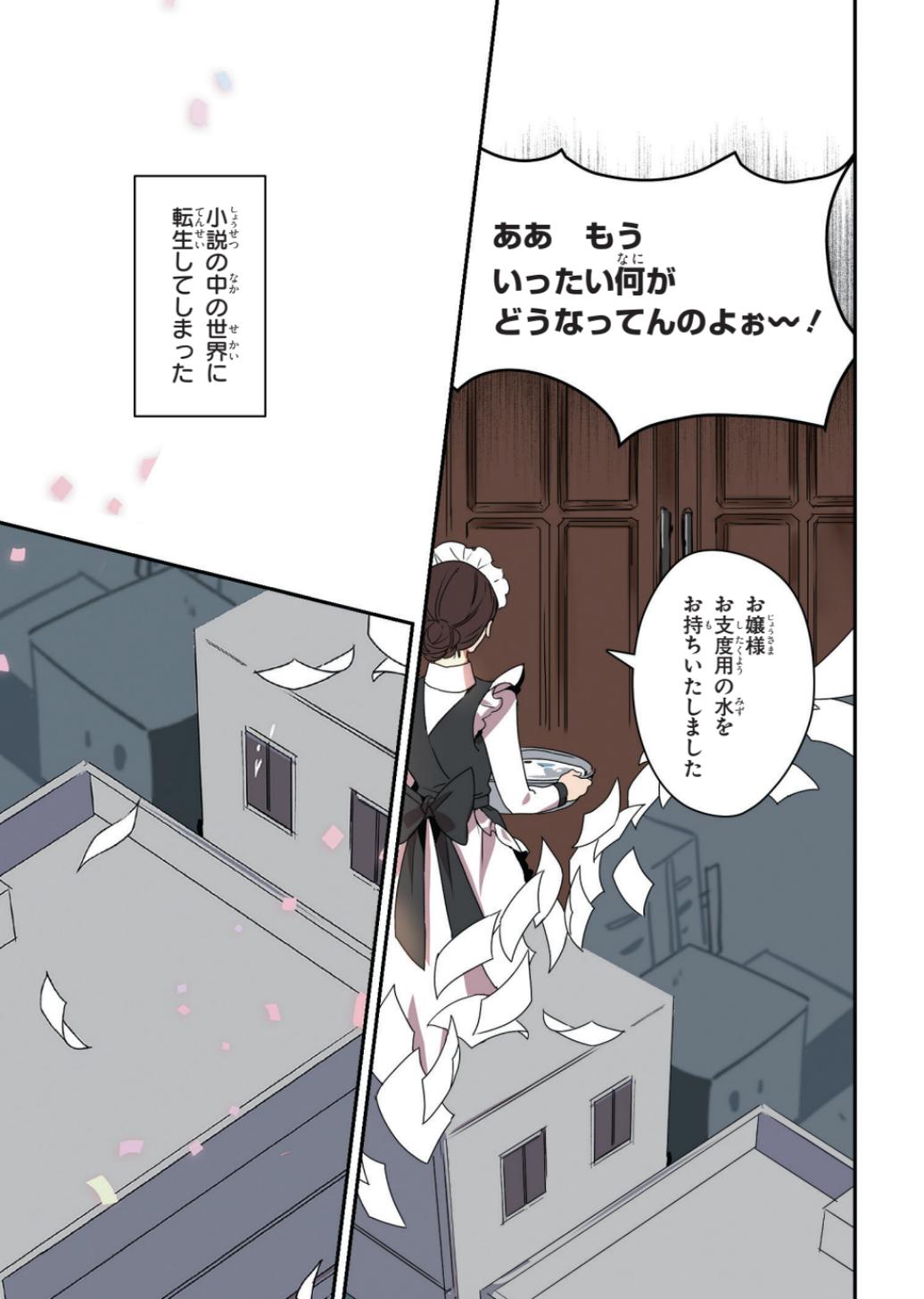
じゃない



小説しょうせつの中なかの世界せかいに
転生てんせいしてしまった

ああ もう
いったい何なにが
どうなってんのよお〜!

お嬢様おじょうさま
お支度用おしだようの水みずを
お持ちもちいたしました



あれは2017年
3月18日：

志願した大学に
ことごとく落ちた私は

毎日予備校の
自習室に座って
ただただ追加合格の
連絡を待っていた



辞退者なんて
出るわけないか



はあ……



外の空気でも
吸ってこよ

ちょっと
出てくる

凜子！
どこ行くの？





二年を棒に振って
浪人までしたのに
志望校全滅って...





その時
誰かが私に声を
かけてきた

その人物が
今私が小説の中に
いることと何か関係が
あるんじゃないかと
必死に思い出そうと
したのだけど



その人の顔も

声も



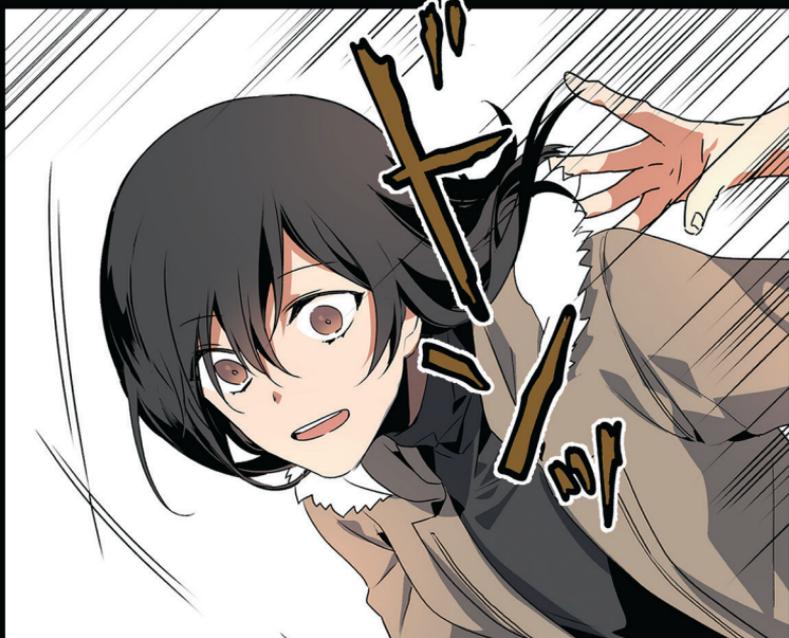
なんの話を
していたのかすらも
思い出せず

唯一覚えていた
ことといえは

見知らぬ相手に対する
不安と好奇心…

そんな漠然とした
感情だけだった







…え？



はーん…



お母さん^{かあ}



お兄ちゃん^{にい}





あなたには
たのみに
短命の相が見える

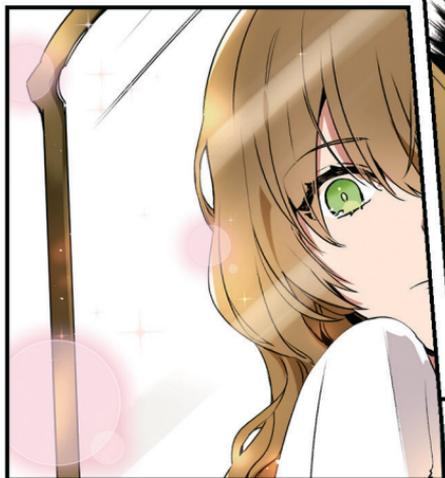
そっか……



どのみち私は
死ぬ運命
だったんだ

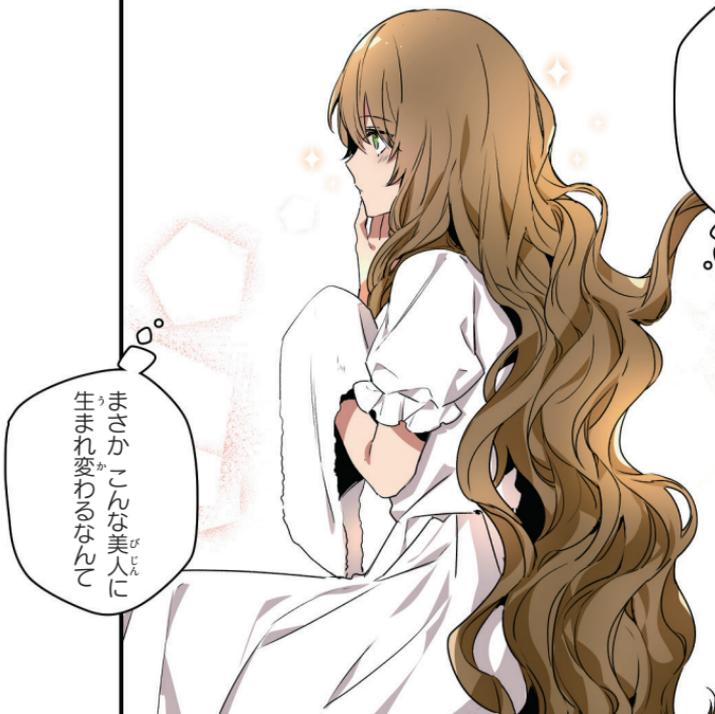
だが私は
この世界で
目を覚ました

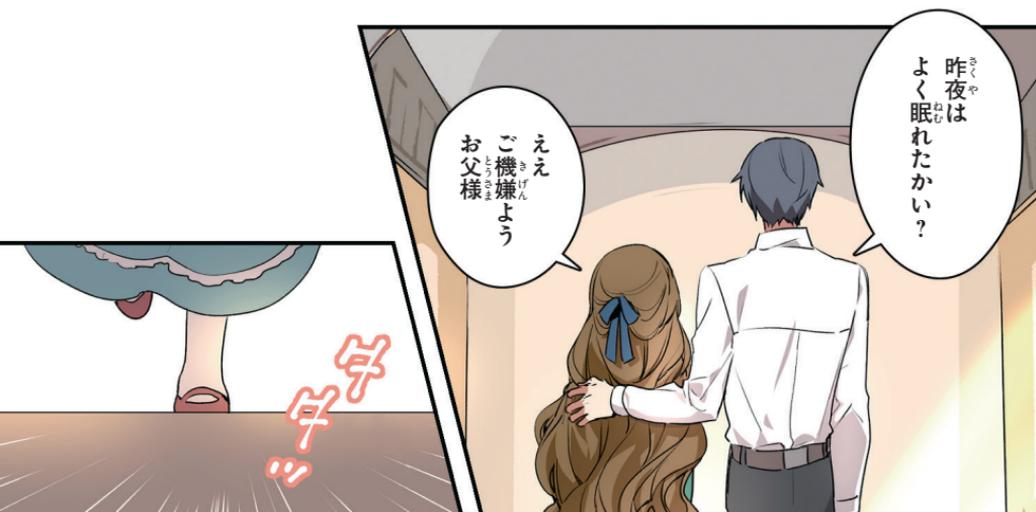
なんで
生きてんの？

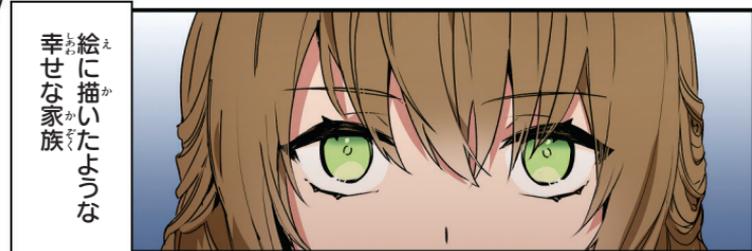


にしても
慣れないな…

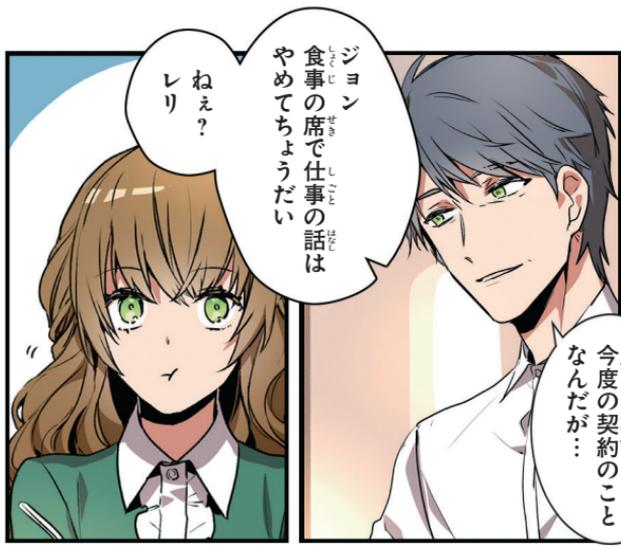
まさかこんな美人に
生まれ変わるなんて







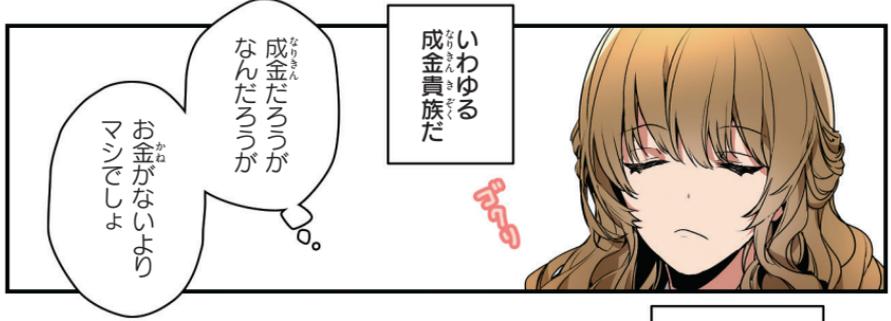
この家の当主である
ジョンデーン・マウミンは
石油事業で成功を収め
男爵の爵位を与えられた



ジョン
食事の席で仕事の話は
やめてちょうだい

ねえ？
レリ

それで
今度の契約のこと
なんだが：



いわゆる
成金貴族だ

成金だろ？
なんだろ？

お金がないより
マシでしょ

ブツ

そして私は
こうして
生き返った上に

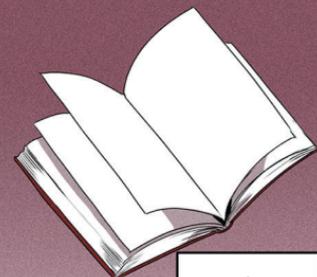


家族にも恵まれて
何不自由ない生活を
送っている

レリアナ・マクミランが
小説の中の人物であることを
除いては――



ここは
小説の中の世界



レリアナ・
マクミランは
ただの脇役であり



この物語の主人公が
帰国するきっかけとなる

「友人の死」の

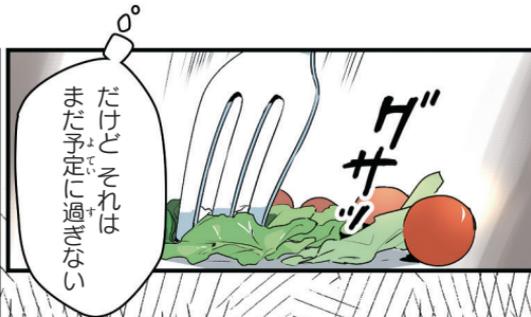


「友人」
ゆうじん



そして
レリアナ・
マクミランは

近いうちに
命を落とす



二度も死ぬなんて



絶対に嫌……

作中での
レリアナの死因は

ヒ素中毒

婚約者が
毎晩淹れるお茶に
混ぜていた
毒薬のせいだ

フレンチ・
ブルックス

レリアナ・
マクミランの
婚約者



グ
シヤッ

すべての
元凶であり

レリアナ
殺人事件の
犯人：



ブルックスは
マクミラン家から
厚い信頼を得ており



娘をぐくし
傷心している家族を
丸め込むのは容易かった

そして
その際に事業を
乗っ取ろうとした

その時

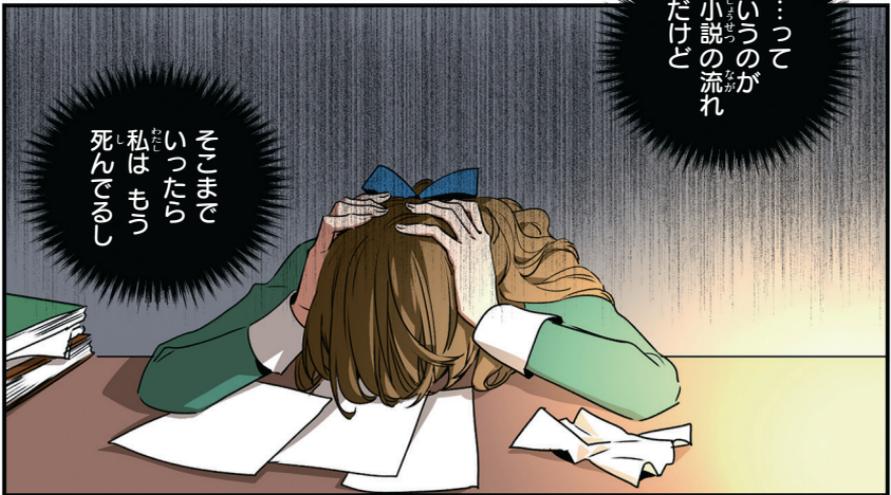


この小説の
ヒロインが現れ
事件の真相を暴く



…って
いうのが
小説の流れ
だけ

そこまで
いったら
私はもう
死んでるし



とりあえず
この婚約を
破棄させないと

でも
どうやって？



かつての勢いは
ないまでも
ブルックス家は
由緒ある名門貴族



それに
二人の婚約は
両家の合意の上…

こちらから
一方的に破棄
することは
できない

かといって
フレンチ・ブルックスが
私を殺そうとしてるなんて
言ったところで

そんなの
誰が信じる!!

おかしなやつだつて
精神病院に
入れられるのが
オチだわ…!



となれば
方法は一つ!



私との
婚約を解消
したくなる
ように
仕向ける!





あなたと別れたいのですが

ははっ
なんて滑稽なんだ

あの私の話を聞いていらつしやいますか?

あんな
おかしなクラスは
初めて見たよ



さくせん 作戦その1 失敗 しっぱい



次こそは絶対に成功させてみせる!

甘かったもつとちゃんとお戦を練らないと…



あらごめんなさい

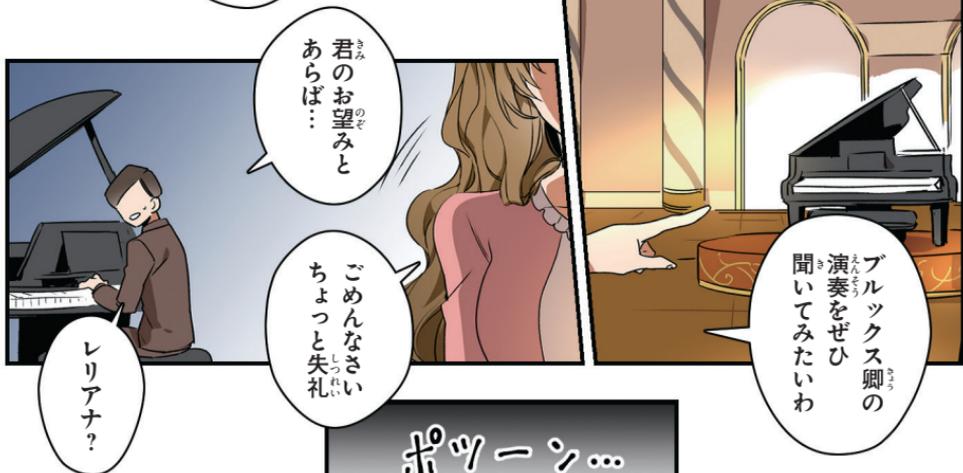
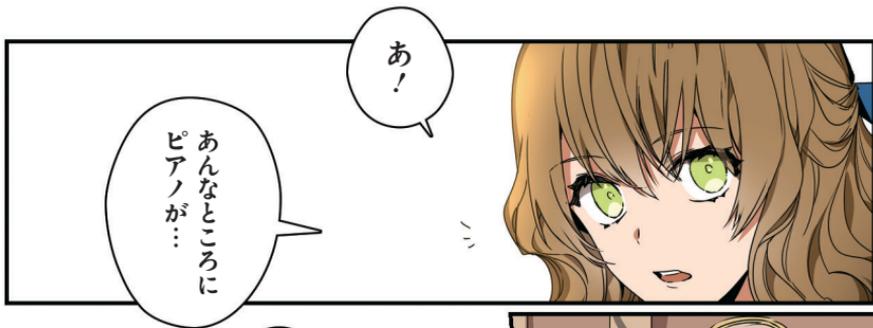


いや…いいんだ



大事な洋服を汚してしまいましたわ

手が滑って…



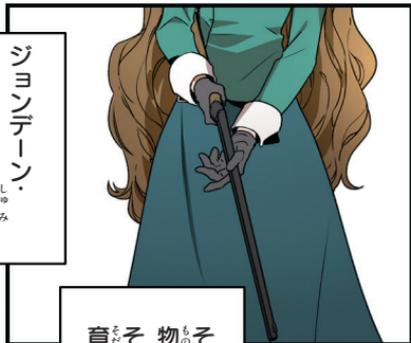


あんなに
ほんまに
本まで誘んだのに
ぜんぜん効いてないし！

さくせん 作戦その2 失敗
しっぱい

よし
3度目の正直よ
こんど
今度こそなんとしても
成功させてやるん
だから！





そして私は物心ついた頃からそんな父を見て育った



不慣れな
もので



失礼

ここまですれば
そろそろ愛想を
尽かして別れを
切り出して…

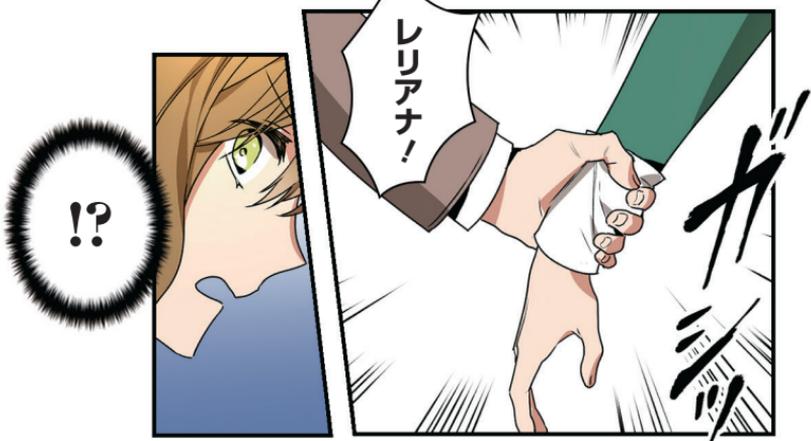
…来ない



今日は
お会いする約束も
していないのに…



ブルックス卿
ここには
どうして？





何を
するんですか！

なぜ急に
そんなことを
言うんだ？

政略結婚とはいえ
私たちにももっと
深い愛情があると
思っていた

それとも
そう思っていたのは
私だけだったのか？

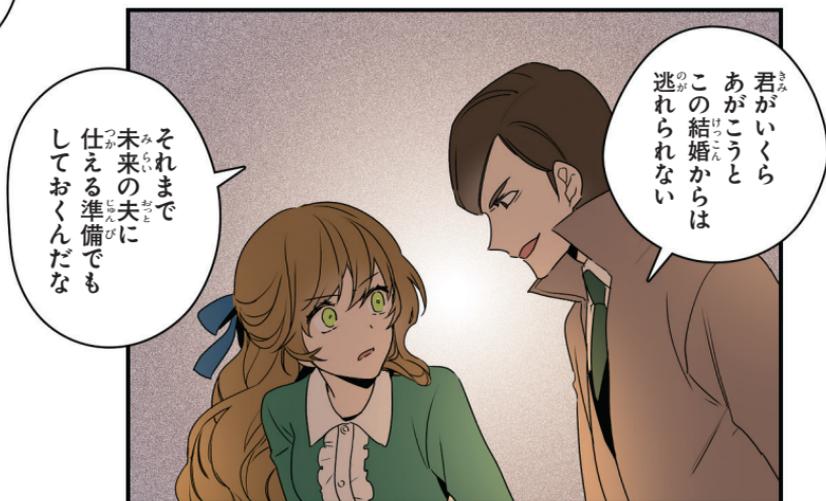


ええ
ブルックス卿の
思い違いですわ



ですから
この手を
放してください







あの男…

今すぐ
この手で殺して
やりたい…!

結婚した後でも
方法がないわけじゃ
ないけど



こんな
よくわからない世界で
毎日 恐怖に怯えながら
生活するなんて

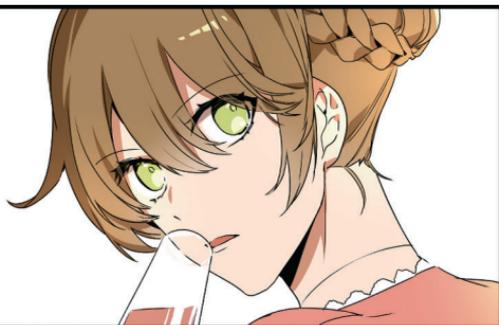
絶対に嫌…！
ぜったいにいや

何か他の方法を
なにほかのほうほうを
考えないと
かんがえないと

グッ



あ…



お
で
な
へ
び
な
な



ノ
ア
ボ
ル
ス
テ
ア
・
ウ
ィ
ン
ナ
イ
ト

こ
の
王
国
の
公
爵
で
あ
り

この小説の
主人公だ



続きは
「彼女が公爵邸に行った理由」

(FLOS COMIC / KADOKAWA 刊)

コミックス1巻をご覧ください!

